

■大麦BASIC

いつから食べていた？ 大麦食の歴史

人類が農耕を始める前、2万年以上も前の採集民族は野生の大麦を食べていたようだ。栽培が始まったのは約1万年前の中近東で。その後ヨーロッパやエジプト北部、中央アジアを経て南アジアへと伝わった。

日本には縄文後期に中国から伝わったとされる。米に次ぐ重要な農作物として、稲作の裏作として栽培されるようになった。平安前期の『続日本紀』（西暦797年）には、そばや小麦とともに、大麦の栽培が推奨されたという記録がある。

次第に大麦は粒で食べる、小麦は粉にして食べるという使い分けが一般化し、明治時代になると煮炊きしやすい押麦が考案された。

大麦が日本に伝わり、栽培が一般化するまで

2万2000年以上前	中近東で野生種の大麦を食べていた
1万2000年前	中近東で大麦の栽培が始まる
8000年前まで	ヨーロッパ、エジプト北部、中央アジア、南アジアへ広がる
4000~3000年前（縄文後期）	中国から日本に伝わる
西暦800年ごろ（平安前期）	大麦の栽培が一般化

参考：Nature 430, 670-3, 2004
 飲食事典（平凡社）2012
 ケンブリッジ世界の食物史大百科事典2（朝倉書店）2004
 たべもの起源事典（東京堂出版）2003